

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4093200113
法人名	株式会社 裕生堂
事業所名	陽だまり倶楽部東大利 (ユニット名 1ユニット)
所在地	福岡県大野城市東大利3丁目11番28号
自己評価作成日	平成23年2月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者が生き生きと生活できるよう、利用者本位のケアの実践に努めている。また、認知症になっても外出できる喜びや楽しみを感じていただくため、毎月外食会や外出会、温泉などの行事を積極的に行なっている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

このホームは、福岡都市圏を中心に展開している裕生堂薬局が運営母体である。同法人は「やりがいある職場をめざして」とのスローガンがあり、職員は、「お年よりは自分がいつか通る道、誠心誠意お世話をする」の理念を掲げ、利用者と共に過ごしながら支えていく姿勢を大切に実践している。また、「地域との交流を図り、ふれ愛豊かな施設作りを目指す」では、開設当初は意識的であったものが、経過していくにつれて地域行事やホームの行事に利用者や地域の方が双方向で参加し交流が深まっている。同一敷地内には胃腸科内科、同法人が運営する介護付有料老人ホームがあり地域福祉・医療の一翼を担っていることからさらなる親交を深めていくことが期待される。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成23年3月30日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営主体が薬局であるという特性を活かし、地域密着型施設としての独自の理念をつくっており、理念に沿ったケアの実践のため、毎朝のミーティングや月1回のケアカンファレンスの中で、職員全員で理念を話し合い共有している。	施設長を中心にして理念が作られ、利用者に対する思いや地域密着型サービスの意義を踏まえた理念となっている。その理念実践のためにミーティング時に振り返ることや話し合うことで共有に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りなど地域の行事に参加したり、小学校との定期交流会を行なっている。施設のイベントにも地域の老人会や小学生などを招いている。日常生活の中でも、近所の方と顔を合わせれば挨拶を交わすなど活発な交流に努めている。	開設当初は、意識的に声掛けや交流を図る等していたが、今では夏祭りなど地域とホームの双方の行事に互いが参加するようになってきている。また、前の道路が通学路であり、小学生の訪問があり利用者の楽しみの一つになっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で、地域の方々の相談を受ける場を設け、認知症に対する理解を深めていただくよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において、利用者の状態やヒヤリハット、行事などの施設の取り組みを報告した上で意見交換を行ない、サービスの向上に努めている。	利用者(体調により参加)・家族代表・公民館職員・行政職員・ホーム職員により、行事の報告やヒヤリハットの報告・看取りの問題・ホームの運営に関し地域の方がどう思っているのか、災害時の協力体制等話し合い、サービス向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者とは密に連絡をとる中で、積極的に情報交換を行ない、協力関係を築いている。	運営推進会議、介護保険の手続き等以外にホームの運営上の問題など適宜相談し助言を頂いており協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束やその弊害について、全職員が正しく理解しており、開設当初から玄関の施錠を含めた身体拘束をしないケアを実践している。	職員は身体拘束禁止に関する外部研修に参加し、内部での伝達研修を行い全職員が理解しており、玄関の施錠はしていない。ベッド柵の使用でも身体拘束をしないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者の虐待に関する研修会に参加した職員による勉強会を開催し、高齢者の虐待についてしっかりと理解した上で、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は、以前成年後見制度の利用を支援した経験があり、勉強会も行なっている。必要な方には家族の意向を確認した上でいつでも活用できるよう、資料も準備している。	内部での職員研修を行い制度の理解を図っている。現在利用している方はいないが、入居時に管理者が、本人や家族に説明しており状況に応じて支援ができる体制を整えている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族の希望・疑問などを確認した上で、納得されるまで十分に説明を行なっている。現在、契約に関する苦情などは出ていない。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	全職員が日常生活の中で、利用者の小さな意見や不満の声を聞き逃さないよう配慮し、家族にも気軽に意見を言うていただけるような雰囲気作りに努めている。出た意見は全職員で共有し、運営に反映させている。	家族の訪問があった際や電話時、また、毎月発行される「陽だまり通信」において家族の望まれる事や利用者の日常の様子を報告している。家族の参加できる行事等を増やして密に接することで家族の意見等を運営に反映させたいと考えている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、常に職員との意見交換を行ない、現場の状況把握に努めている。また、管理者会議を通じて、代表者に職員の意見や提案を報告している。	管理者は、職員間との横の連携を大切にしており、朝礼・月1回行われるカンファレンス以外にも常に職員の意見や提案を聴く姿勢を持っている。出された意見は、管理者の判断や管理者会議において代表者に提案し運営に反映できるよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者から毎日提出される業務日報や月1回の管理者会議により、職員の努力や取り組み等の状況を把握している。また、管理者の意見を積極的に取り入れ、働きやすい環境作りに努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き活きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の募集・採用にあたって、性別や年齢に左右されることはない。また、職員の自由な発想を大事にし、実現に向けた取り組みを積極的に行なっている。	職員の募集や採用にあたり性別年齢を理由に排除することは無い。職員が生き活きと勤務できるよう意見を汲みとることや職員の希望する日に有給休暇等が取りやすいよう勤務体制の調整や配慮をしている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人の人事担当者や管理者が、人権に関するセミナーに参加し、全職員に対して勉強会を実施する予定である。	代表者及び管理者は理念のひとつである「お年よりは自分がいつか通る道、誠心誠意お世話をする」を実践するために、朝礼やミーティングの際に言葉の使い方や利用者の人権尊重について理解を促し啓発活動に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	福岡県グループホーム協議会やホスピス緩和ケアネットワークに入会し、多くの研修に参加する機会を設けている。また、研修に参加した職員による勉強会を実施し、全職員のレベルアップにつなげている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福岡県グループホーム協議会に加え、市の地域密着型施設情報交換会が発足、定期的に会合を開いている為、同業者との交流の機会は多く、情報交換も積極的に行なっている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の訪問面談により、本人自身と話しをし、生活環境などの情報収集を十分に行うことで本人に対する理解を深める努力をしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の話しをじっくりと聴き、その思いを理解し受け止める努力をすることで、信頼関係が構築できるよう努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族のニーズを見極め、最も適したサービスの提供に努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互いに1人の人間として尊重し支えあいながら生活することを大事にしている。調理や園芸、手工芸など、利用者に指導してもらう場面を積極的に作る努力をしている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とはこまめに情報交換を行ない、同じ思いで本人を支えていく関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力をいただきながら、友人・知人との面会や電話・手紙のやり取りなどの支援を行なっている。	職員は、利用者の友人の訪問や利用者の友人宛ての手紙の代筆など継続的な交流を働きかけている。また、馴染みの場所に外出する際には家族の協力を得ながら今までの関係が途切れないよう支援に努めている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全職員が、利用者同士の関係性や起こりうるトラブルなどを十分に把握し、円滑に関わり合えるよう支援している。また、食事やおやつ等の際は、職員も同じテーブルにつき、利用者全員が楽しい時間を過ごせるよう努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在入院による退去者が1名のみ。継続的なフォローが必要な事例ではなかったが、今後必要があればサービス終了後も本人・家族の支援に努めていきたいと思う。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、コミュニケーションと取りながら本人の思いや希望の把握に努めている。家族からもできる限り多くの情報を得るようにしている。	管理者は入所時に家族から趣味や生活歴を聞いている。また日常生活の会話の中で職員は一人ひとりの希望や意向の把握に努めている。難聴等でコミュニケーションが取りにくい方は日ごろの観察や口の動き、筆談で本人の意向の把握に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の訪問面談において、関係機関などから情報収集を行なっている。また、家族には生活歴を把握することの重要性を説明し、納得していただいた上で提出をお願いしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	全職員が、日常生活を送る中で、常に心身の状態や有する能力を全体像として把握する努力をしている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃から本人や家族から聞き取りを行ない、個々のニーズに応じた介護計画を作成している。また、状態の変化に応じて見直しを行ない、現状に即した計画の作成に努めている。ケアカンファレンスについては、スタッフのみで行なっているのが現状である。	家族や関係者の訪問時は、それぞれの意見や要望の聞き取りを行なっている。日ごろの本人の様子や職員からの気づき等の情報を得ながら、個々のアイデアを反映し現状に即した介護計画を作成している。毎月の話し合いと3ヶ月に1回の見直しにより、介護計画を作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に細かな状態を記録しており、全職員が本人の日頃の状況を把握し共有した上で、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況・要望に応じて、個別に外出支援を行なう等柔軟な対応を行なっている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年4回の防災訓練や定期的な救急・救命講習受講の際に、消防の指導やアドバイスを受けて、地域を担当している交番に顔を出すなど関係機関との連携に努めている。また、運営推進会議の中で、地域の民生委員などとの協働についても検討している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医療機関であるかかりつけ医が、月2回の定期訪問診療を行なっている。かかりつけ医について、本人や家族の希望があればそれに沿うよう支援を行なっている。	入居時、本人家族等の希望を伺いかかりつけ医を決めている。ホームの1階が協力医療機関になっており、健康相談等連携は出来ている。また看取りによる24時間対応可能な在宅診療も提供しており、本人家族が安心できる支援を行なっている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同一敷地内にある関連施設の看護職や協力医療機関の看護師と連携を取りながら、日常の健康管理に努め、適切な看護を受けられるよう支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は、こまめに面会に行き食事介助をするなどして不安を取り除くことで、認知症の進行など入院によるダメージを最小限に抑えるよう努めている。また早期退院に向け、病院関係者との情報交換や相談などもこまめに行なっている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた対応の指針を定めており、本人や家族に対し、入居当初から事業所が対応しうる最大限のケアについて説明を行なっている。現在終末期ケアの事例はないが、かかりつけ医とも連携をとりながら、チームとして支援していく体制を整えている。	重度化や終末期に向けた対応の指針を定め、本人家族等の話し合いは行なっている。終末期ケアの事例はないが、終末期の要望があれば、事業所と医師・看護師の連携や、チームで支援する体制は整えている。終末期ケアにおいては、家族の泊りの検討を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員は、救急救命講習を受講しており、今後も年1回程度の受講を予定している。また、往診の際などにかかりつけ医のアドバイスを受けている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルを作成し、避難経路・避難場所を確保している。また、防火管理者の指導のもと、年4回の防災訓練を実施している。	災害マニュアルを作成し、年4回昼夜を想定しての防災訓練を行ない把握している。マニュアルの見直しや備蓄品の検討を行っている。運営推進会議においても、防災訓練の報告や地域の協力体制の相談を行っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人のプライドを傷つけないような声掛けや対応をするよう努めているが、徹底しているとはいえない。毎朝のミーティングなどの中で自分のケアを振り返る機会をつくり、徹底していきたい。	常に理念を念頭におき‘誠心誠意お世話をさせていただく’取り組みを行っている。これまでに利用者のプライバシーや誇りを損ねるような対応はみられないが、そのような場面に遭遇した時は管理者が対応を行なうようにしている。記録等の個人情報には鍵のかかる事務所に保管している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴の前に着替えの洋服を自分で選んでいただいたり、おやつの際に好きな飲み物を決めていただくなど、自己決定の場面をできるだけ多く作るよう努めている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れの中で、1人1人の状態や希望に応じて支援している。特に買い物や散歩などについては、できる限り個別に対応している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしさを大事にし、外食会や外出などの行事の際には、普段とは違うおしゃれな装いをしていただき、賞賛の声掛けを忘れないようにしている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は職員と一緒に摂っており、楽しい雰囲気づくりに努めている。また、食事の準備や後片付けも、利用者の好みや能力に応じて役割分担をし、職員も一緒に行なっている。	利用者と一緒に料理本を見ながら残り食材で献立を決めている。食材購入は毎日利用者に付き添い同行している。調理、下ごしらえ、配膳、後片付け等利用者の好みや能力に応じて役割分担しており、食事の楽しみになるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量を毎日チェック表に記録し、全職員が情報を共有している。食事やおやつ以外にも、起床時・散歩の後・入浴後など水分補給の機会をつくり、十分な水分摂取量の確保に努めている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後利用者の状態に応じて、声掛けや介助により口腔ケアを行ない、口腔内の清潔保持に努めている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成し、排泄パターンの把握に努めている。リハビリパンツから布パンツへの移行など、利用者の能力に応じた取り組みを積極的に行なっている。	一人ひとりの力や排泄パターンをつかむ為、排泄チェック表に記入している。また利用者の能力に応じてリハビリパンツから布パンツへの移行の取り組みを行っており、トイレでの排泄や自立に向けた積極的な支援がなされている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に野菜を多く取り入れる、こまめに水分補給を行なう、散歩や体操を日課に取り入れ身体を動かす機会を増やす等、自然排便に向けた取り組みを行なっている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は毎日行っている。入浴の長さや回数については、利用者の希望に沿うよう努めているが、勤務ローテーションの関係で日中の入浴となり、時間帯の希望に沿うのは難しい現状である。	毎日入浴の楽しみを味わっている。日中のメリハリをつけるため、午前中は散歩等を行い、午後に入浴を行なっている。入浴を拒む場合は、様子を見ながら再度声かけや足浴等の支援を行なっている。また毎日入浴の為、無理な強制は行なわず、個々にそった支援がなされている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、散歩や体操を行なうなどして活動的に過ごしていただき、生活のリズムを整えるよう努めている。利用者の状況に応じて午睡を促すこともある。夜間、寝付けない利用者については、暖かい飲み物を提供したり、お話を傾聴するなどして安眠を支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	体温表に現在服用中の薬を明記し、全職員が薬の目的・副作用の把握などに努めている。状態の変化に伴う処方内容の変更についても、その都度確認している。また、経営母体である薬局の支店が近くにあり、管理薬剤師による服薬支援も行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴や力を全職員が把握しており、1人1人に応じた役割や趣味・気分転換などをしていただくことで、活気ある生活を送ることができるよう支援している。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日課の散歩や買い物、外食会や外出などの毎月の行事により、戸外に出掛ける機会を多く作っている。また、利用者の趣味や希望に応じて、家族と協力しながら、自宅訪問や芝居見物などに出掛けていただいている。	今、出来ることを大切に、毎日一人ひとりの希望にそって行なっている。自宅訪問や芝居見物の要望あれば、家族の協力を得ながら取り組んでいる。今後はバスや船等の交通機関を利用したの取り組みを検討している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の意向もあり、事業所が管理している。お金を手元に置きたいと希望される場合は、家族の同意のもと所持していただくこともある。また買い物の際は、利用者自身に支払いをしていただくよう支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務室の電話を利用される場合は、子機を居室にお持ちしゆっくりとおしゃべりを楽しんでいただいている。また、お手紙をもらわれた場合には、お返事を書くための支援を行なっている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が日中多くの時間を過ごすリビングは特に日当たりが良く、温度調節もこまめに行なっている。また、リビングや廊下の壁には、利用者の手工芸作品や行事の写真などを飾り、明るく居心地の良い空間作りに努めている。	共用空間は五感を大切にしたい意向があり、ゆったりと広く陽がよく差し込む造りになっている。床は素足で過ごせるよう床暖房を施し、転倒時の衝撃を和らげる工夫がされている。利用者の手作りカレンダーや毛筆による日めくり暦が飾られ、居心地良く過ごせるよう工夫がなされている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	建物の間取りなどの関係で、独立したスペースの確保は難しいが、家具の配置などを工夫して、気の合う利用者同士で会話を楽しんだり、寛いだりできるよう配慮している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れた家具や家族の写真などを飾っていただくなどして、居心地の良い空間作りに努めている。	居室には、使い慣れた家具や家族の写真が飾られている。また定期的に訪問する小学生達からの写真等の贈り物は、本人が思い思いに飾りつけをしており、安心して居心地良く過ごせる工夫がなされている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や階段、浴室などには手すりを設置し、床には転倒などによるダメージを最小限に抑える為の緩衝材を使用している。また、居室には名札をさげ、トイレにも表示をするなどして、出来るだけ混乱なく生活できるよう工夫をしている。		